



『活きていることわざ』

船橋市議会議員

神田 廣栄 (かんだひろえい) 議会報告

【事務所】 船橋市前原西8-24-8 ☎490-3333 FAX 465-7117

Eメール hiroei@muc.biglobe.ne.jp

ホームページ <http://www.hiroei.jp>

藁(わら)にも縄(すが)る。紆余曲折(うまごせつ)

【藁にも縄る】◇困(こま)り切っている者は、どんなに頼りにならないものでも頼る。ということ

【紆余曲折】◇曲がりくねること。事情が複雑に変わること。

6月議会があっと言う間に終わりました。というのは、例年この議会は議長選挙がありますが、今回は議長が辞任せず混乱が起きませんでした。以前にも書きましたが、議長の任期は4年なのですが、船橋市は2年という決めごとがあります。さらに、毎年のように「一身上の都合」で1年間で辞任しています。今回は「一身上の都合」がなかった(?)ようです。光熱費と時間を無駄にすることがなく良かったのかも知れません。

今号は、6月議会の質問の一部、特に法律最優先に異議を唱えたものを掲載します。

①思いやりの心が全く無い介護保険課の対応

被介護保険者がバリアフリーの工事をする、と、工事費の9割が助成されます。ケアマネジャーが現場を確認し介護保険課に事前申請することが必要です。

ある日こんな相談がありました。手摺りの取り付け工事を終えた建築会社に、被介護保険者が支払いをして、介護保険課に助成申請をしたら「ケアマネジャーの手続きがなかった」という理由で門前払いされたので困った、というのです。



大切な税金からの助成ですから、手続き不備に対する介護保険課の対応は間違っていないと思います。

しかし、被介護保険者も工事をした建築会社も、全く手続き不備を知る立場にはなく、ケアマネジャーのミスだったのに「決まりですからできません」と冷たく門前払いされたのでは、困った市民は一体誰を頼ったらいいのでしょうか。『縄(すが)る藁(わら)』をも切ってしまうのですか。



まず相談に乗ってくれるのが行政ではないのか「法律や規則ではだめですが、どんな方法があるか検討します」等、手を差し伸ばせる優しい行政マンになって欲しいものだ。と期待を込めて要望しました。

②岩手県沢内村（現西和賀町）に見る生命行政（医療費の無料化）

この村の村長だった 深沢晟雄（ふかさわせいゆう）氏は、昭和35年に65歳以上の高齢者に国民健康保険の10割給付を実現しました。翌年の4月には60歳まで引き下げました。つまり、60歳以上の方全員の医療費を無料にしたのです。

この画期的な生命行政には『紆余曲折』がありました。村議会に提案する前に、岩手県の厚生課長に相談に行ったところ「この措置は国民健康保険法に違反する」と言われました。つまり国民健康保険法では被保険者は3割負担が義務付けられていましたから、保険料を無料にすることは法律違反である、ということだったのです。



深沢村長

この沢内村は、奥羽山系の寒冷多雪地帯で「豪雪と病気と貧乏」の3悪に苦しむ東北地方でも極めつきの僻村（へきん=片田舎の村）だったのです。

その最悪な状況の村をなんとかしなくては、と深沢村長は「沢内村がこれをしなければ住民が生活できないものを、これをやって裁判されるなら受けて立ちましょう」と敢然と実行に移したのです。



彼はまた、全国でも乳児死亡率が一番高かった岩手県でも、最悪だった沢内村を、昭和37年に全国初の乳児死亡ゼロに導きました。一人の卓越したリーダーによって法律を超えた《生命行政》が実践されたのです。

現実に戻ります。船橋市の老人保健医療費総額は、平成18年度が297億円。平成19年度が299億円です。その中での個人負担総額は、平成18年度が27億円。平成19年度が28億円となっています。現実性はありませんが、平成20年度の船橋市のタバコ税収入が32億円ですから、タバコ税をこの財源に充てたら堂々とタバコが吸えそうだし、なにより高齢者の医療費が無料になるのではないかと話しました。

私は、高齢者でも年間所得の多い方もおられるので、例えば年間収入360万円以下の方の医療費を無料とし、それ以上の方は段階的に少しずつ負担して戴くよう制度改正してはどうか。その原資を、議員定数や職員と管理職の削減、市が出資している11の外郭法人の整理・統合、助成金・補助金の見直し等行政をスリム化して生ませてはどうか、と質問しました。



無駄をどんどん無くしましょう

— 健康部長の答弁 —

沢内村の深沢村長の実績は、先駆的、独創的であり特筆されるべき功績だったと思います。窓口負担の無料化については、船橋市の後期高齢者医療制度に加入している方のうち、年収360万円以下の世帯割合は約95%で、仮に無料化すると約30億円の財源が必要となり、また、医療費の上昇等が予測されるため、その実施は考えていません。

こんなことで諦める神田ではありません。今後にご期待ください。